

2017年度第1四半期決算説明会



2017年7月28日

1. 2017年度第1四半期決算実績概要

2017年度第1四半期実績(2017.4.1 - 2017.6.30) <対前年同期実績>

ポイント 増収減益

(+ - ,+ / ▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	+284	+	電力	(+179: 電力販売量増等)
		+	都市ガス	(+149: 原料費調整に伴う単価増+65、数量増等+84)
		-	エネルギー関連	(▲32: 器具▲30(業務用機器販売台数減等)、 LNG販売▲16(原油価格下落による販売単価減)、LPG販売+5(単価増等)、等)
営業費用	▲408	-	都市ガス	(▲292: フレーム影響等による単価増▲308、数量増等▲40)
		-	電力	(▲153: 電力販売量増による燃料費増等)
営業利益	▲125	-	都市ガス	(▲143: 粗利▲199(うちスライド差▲243)、年金数理差異減による固定費減等)
		-	エネルギー関連	(▲35: LNG販売▲41(うちスライド差▲40)、器具+13)
		+	電力	(+27: 小売販売量増による粗利増)
特別損益	+3	+	当期 32: 固定資産売却益	前期 29: 投資有価証券売却益

(単位: 億円)

	2017年度1Q	2016年度1Q	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	3,710	3,604	+106	+3.0%
電力販売量(百万kWh)	3,372	2,680	+692	+25.8%
(内訳)				
小売(百万kWh、需要端)	785	157	+628	+399.9%
その他(百万kWh)	2,587	2,523	+64	+2.6%
売上高	4,041	3,757	+284	+7.6%
営業費用	3,694	3,286	+408	+12.4%
営業利益	346	471	▲125	▲26.4%
セグメント利益(営業利益+持分法損益)	351	477	▲126	▲26.5%
経常利益…①	358	472	▲114	▲24.0%
特別損益	32	29	+3	—
親会社株主に帰属する当期純利益	278	391	▲113	▲28.9%
気温影響…②	▲17	▲42	+25	—
スライドタイムラグ(都市ガス+LNG販売)…③	▲122	161	▲283	—
年金数理差異償却額…④	19	▲60	+79	—
補正経常利益①-(②+③+④)	478	413	+65	+15.7%

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
17年度1Q	111.09	53.36	16.7
16年度1Q	108.16(+2.93)	41.12(+12.24)	17.3(▲0.6)

()内は対前年同期増減

年金	運用利回り ※コスト控除後	期末資産 (億円)
17年度1Q累計	1.03%	2,780

期待運用収益率:2%

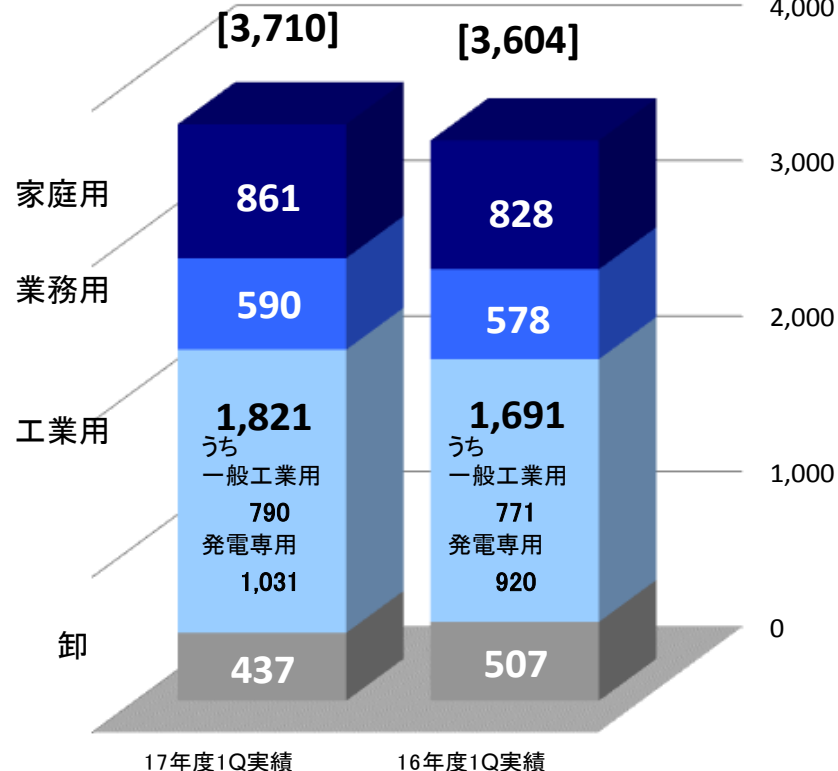
2017年度1Q実績 連結ガス販売量<対前年同期実績>

+106百万m³ (+3.0%)の増加
 [うち気温影響 +42百万m³, +1.2%の増加]

<p>■ 家庭用 +33百万m³ (+4.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気温要因 +33百万m³ ● 日数影響 ▲8百万m³ ● お客さま件数 +10百万m³ ● その他 ▲2百万m³
<p>■ 業務用 +12百万m³ (+2.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気温要因 +7百万m³ ● 日数影響 ▲1百万m³ ● お客さま件数 +2百万m³ ● その他 +4百万m³
<p>■ 工業用 +130百万m³ (+7.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一般工業用 +19百万m³ ● 発電専用 +111百万m³
<p>■ 卸 ▲70百万m³ (▲13.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気温要因 +2百万m³ ● その他 ▲72百万m³ <p>卸供給先数の減等</p>

ガス販売量:

(百万m³以下四捨五入) 百万m³



ガスお客さま件数、LNG販売量、平均気温

	2017年度1Q実績	2016年度1Q実績	増減
<ガス>お客さま件数(万件)	1,155.3	1,141.8	+13.5(+1.2%)
LNG販売量(千t)	235	273	▲38
平均気温(°C)	16.7	17.3	▲0.6

※<ガス>お客さま件数=取付メーター数

■ ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)

	17年度1Q実績	16年度1Q実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	3,710	3,604	+106
			+3.0%
トーリングによる ガス自家使用量	486	431	+55
			+12.9%
LNG販売量(m3換算)	294	342	▲48
			▲13.9%
合計	4,491	4,376	+115
			+2.6%

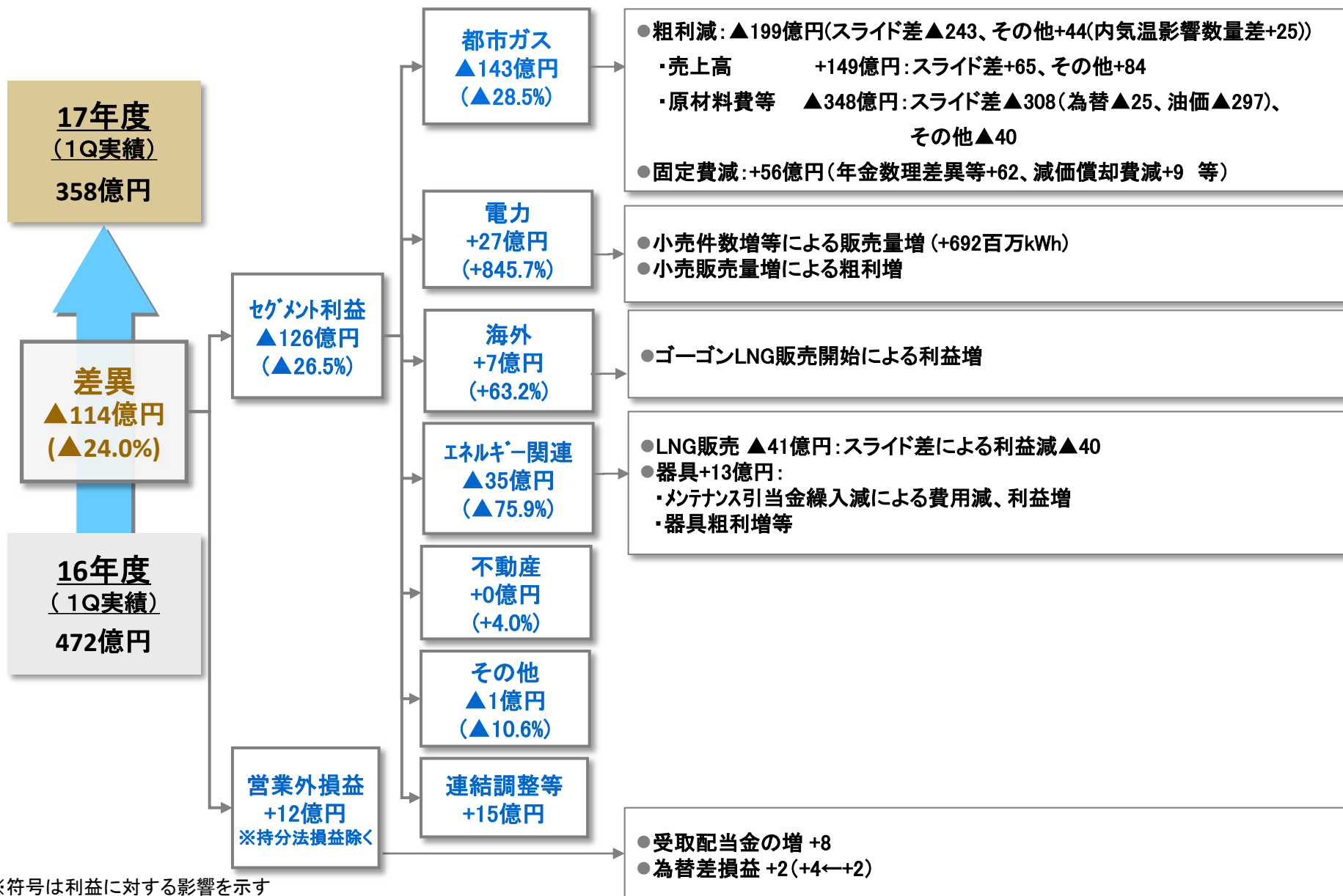
2017年度1Q実績 セグメント別売上高・セグメント利益<対前年同期実績>

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	2017年度1Q	2016年度1Q	増減	%	2017年度1Q	2016年度1Q	増減	%
都市ガス	2,717	2,568	149	5.8	358	501	▲143	▲28.5
電力	452	273	179	65.9	30	3	27	845.7
海外	117	73	44	58.8	19	12	7	63.2
エネルギー関連	975	1,007	▲32	▲3.1	11	46	▲35	▲75.9
(エンジニアリングソリューション)	240	238	2	1.1	0	3	▲3	▲100.8
(LNG販売)	215	231	▲16	▲6.9	▲1	40	▲41	▲104.8
不動産	104	100	4	3.8	22	22	0	4.0
その他	196	188	8	4.2	1	2	▲1	▲10.6
調整額	▲523	▲454	▲69	—	▲94	▲109	15	—
セグメント合計	4,041	3,757	284	7.6	351	477	▲126	▲26.5

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

2017年度1Q実績 経常利益分析 <対前年同期実績>



※符号は利益に対する影響を示す

2. 2017年度 通期見通し

2017年度見通し(2017.4.1 - 2018.3.31) <対当初計画>

ポイント: 対当初計画で減収増益

(+ - ,+ /▲は利益に対する影響を示す, 億円)

- ・経済フレームは、1Qの確定値を反映し、2Q以降は当初計画時のまま為替115.0円/\$、原油価格\$55/bblとしている。
- ・ガス販売量は、1Qの対当初計画増加分を反映し、2Q以降は当初計画を踏襲。

売上高	▲50	:	-	都市ガス	(▲25: 原料費調整に伴う単価減等)
			-	電力	(▲11: 原油価格下落による販売単価減、等)
			-	その他	(▲46: 船舶▲21(計上時期繰り延べ)、等)
営業利益	+20	:	+	都市ガス	(+12: 販売量増による利益増)
			+	電力	(+11: 小売販売量増による粗利増等)
			+	その他	(+12: 船舶+6、等)
特別損益	+32	:	+	当期 32: 固定資産売却益	

(単位: 億円)

	今回見通し	当初計画 (4/28)	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	15,326	15,148	+178	+1.2%	15,720	▲394	▲2.5%
電力販売量(百万kWh)	14,615	14,696	▲81	▲0.5%	12,654	+1,961	+15.5%
売上高	18,080	18,130	▲50	▲0.3%	15,870	+2,210	+13.9%
営業費用	17,240	17,310	▲70	▲0.4%	15,287	+1,953	+12.8%
営業利益	840	820	+20	+2.4%	583	+257	+43.9%
セグメント利益(営業利益+持分法損益)	863	836	+27	+3.2%	619	+244	+39.3%
経常利益...①	800	750	+50	+6.7%	556	+244	+43.7%
特別損益	32	0	+32	—	133	▲101	—
親会社株主に帰属する当期純利益	610	550	+60	+10.9%	531	+79	+14.8%
気温影響...②	▲17	0	▲17	—	▲74	+57	—
スライドタイムラグ(都市ガス+LNG販売)...③	▲288	▲288	0	—	▲199	▲89	—
年金数理差異償却額...④	77	77	0	—	▲240	+317	—
補正経常利益...①-(②+③+④)	1,028	961	+67	+7.0%	1,069	▲41	▲3.8%

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
今回見通し*	114.02	54.59	16.0
当初見通し	115.00(▲0.98)	55.00(▲0.41)	15.9(+0.1)
前年度実績	108.38(+5.64)	47.51(+7.08)	16.3(▲0.3)

*2Q以降: ¥115.00/\$、\$55.00/bbl

カッコ内は今回見通しとの増減

年金	運用利回り ※コスト控除後	割引率		期末資産 (億円)
		年金分	一時金分	
2016年度	1.57%	0.389%	0.055%	2,770
2015年度	2.92%	0.236%	0.000%	2,810
2014年度	5.57%	0.829%	0.358%	2,810

2017年度見通し 連結ガス販売量・電力販売量

連結ガス販売量 今回見通し

対当初計画

+178百万m³ (+1.2%)の増加
 [うち気温影響▲24百万m³, ▲0.2%の減少]

対前年度実績

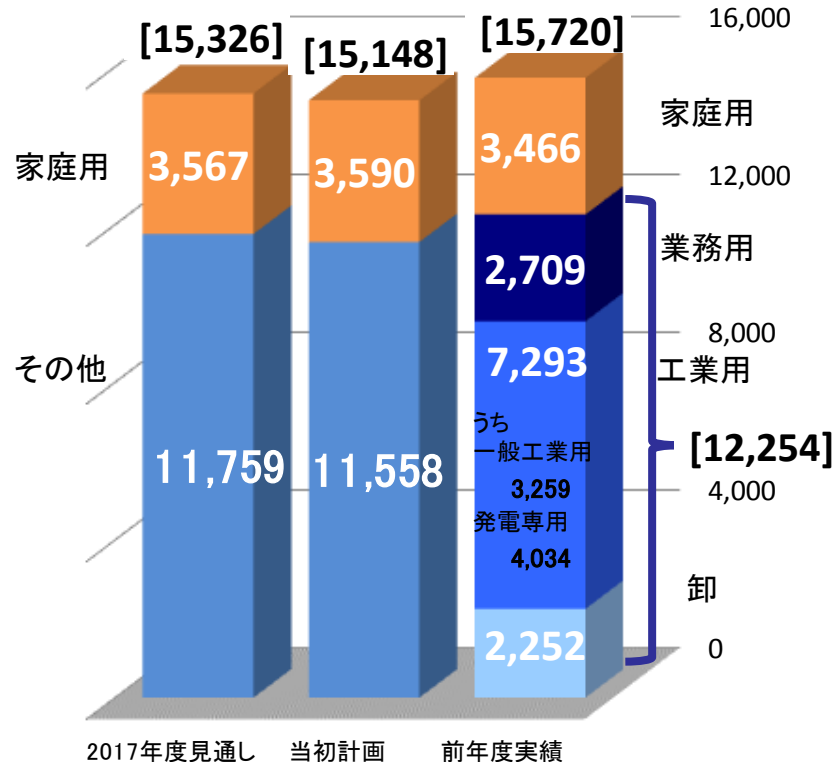
▲394百万m³ (▲2.5%)の減少
 [うち気温影響+91百万m³, +0.6%の増加]

■ 家庭用	▲23百万m ³ (▲0.6%)
■ その他	+201百万m ³ (+1.7%)

■ 家庭用	+101百万m ³ (+2.9%)
■ その他	▲495百万m ³ (▲4.0%)

ガス販売量:

(百万m³以下四捨五入) 百万m³

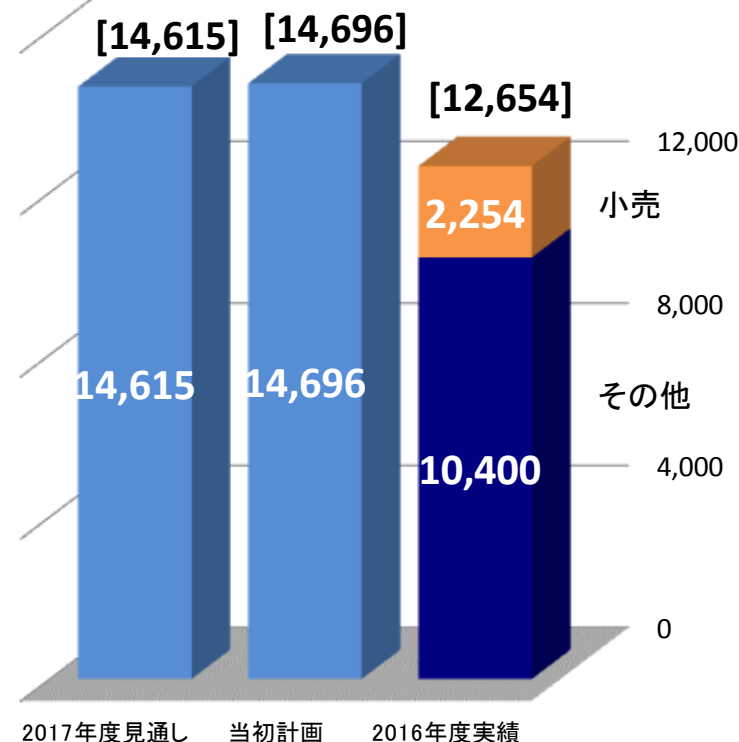


電力販売量 今回見通し

対当初計画 ▲81百万kWh (▲0.5%)の減少
対前年度実績 +1,961百万kWh (+15.5%)の増加

電力販売量:

(百万kWh以下四捨五入) 百万kWh



件数(ガス・電力)、LNG販売量、平均気温

	今回見通し	当初計画	増減
<ガス>お客さま件数(万件)	1,166.8	1,166.8	+0.0(+0.0%)
<電力>小売件数(万件)	100.0	100.0	-
LNG販売量(千t)	1,123	1,120	+3
平均気温(°C)	16.0	15.9	+0.1

※<ガス>お客さま件数=取付メーター数

●ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)

	今回 見通し	当初 計画	増減	前年度 実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	15,326	15,148	+178 +1.2%	15,720	▲394 ▲2.5%
トーリングによる ガス自家使用量	2,025	2,015	+10 +0.5%	1,996	+29 +1.4%
LNG販売量(m3換算)	1,404	1,400	+4 +0.2%	1,337	+67 +5.0%
合計	18,754	18,563	+191 +1.0%	19,053	▲299 ▲1.6%

2017年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対当初計画>

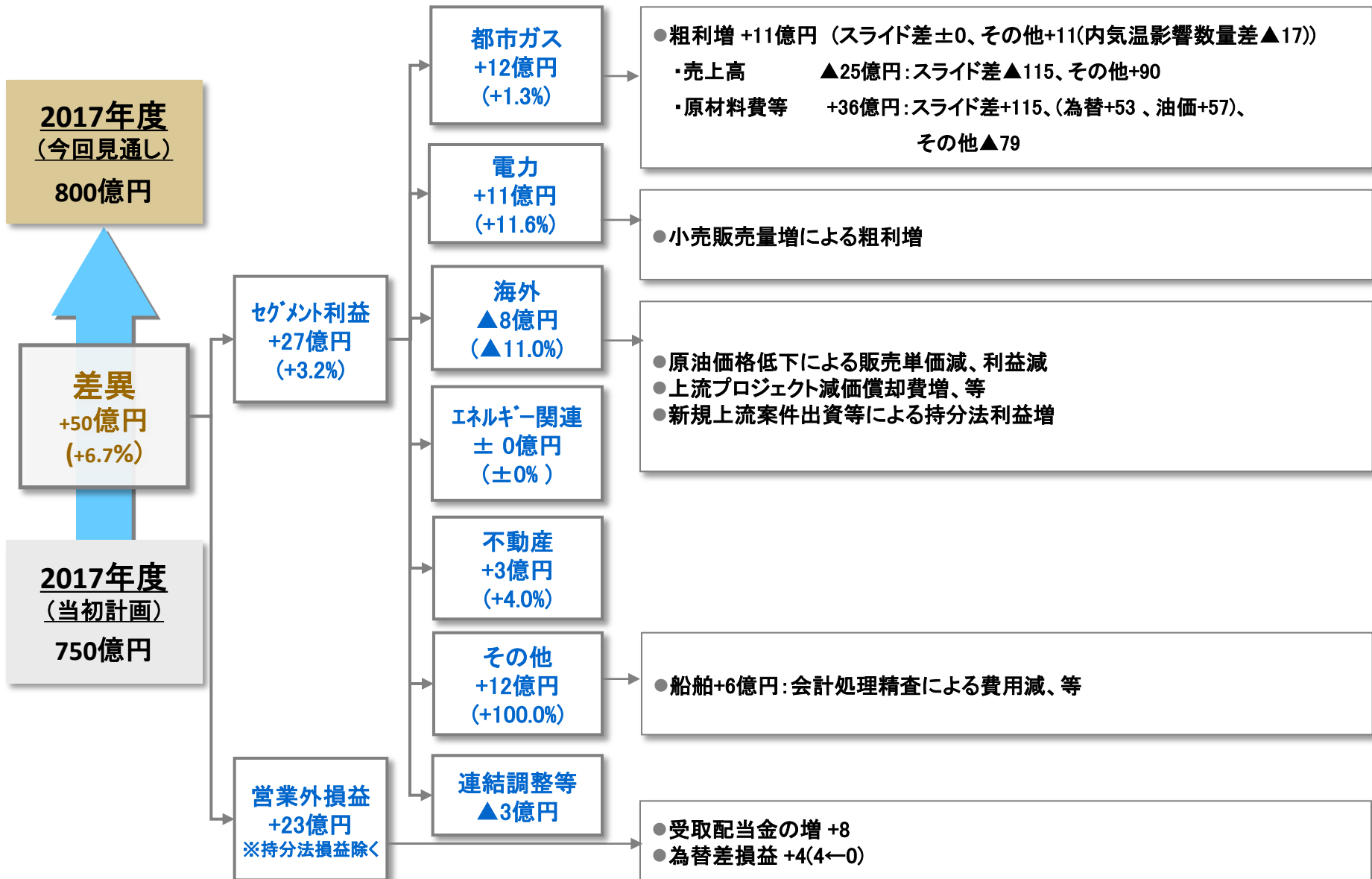
(単位:億円)

	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	今回見通し	当初計画	増減	%	今回見通し	当初計画	増減	%
都市ガス	11,508	11,533	▲25	▲0.2	929	917	12	1.3
電力	2,136	2,147	▲11	▲0.5	101	90	11	11.6
海外	445	444	1	0.2	65	73	▲8	▲11.0
エネルギー関連	5,055	5,051	4	0.1	74	74	0	0.0
(エンジニアリングソリューション)	1,221	1,226	▲5	▲0.4	36	36	0	0.2
(LNG販売)	1,259	1,273	▲14	▲1.1	5	5	0	▲14.1
不動産	428	425	3	0.7	78	75	3	4.0
その他	940	986	▲46	▲4.7	24	12	12	100.0
調整額	▲2,432	▲2,456	24	—	▲408	▲405	▲3	—
セグメント合計	18,080	18,130	▲50	▲0.3	863	836	27	3.2

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

2017年度見通し 経常利益分析

<対当初計画>



※符号は利益に対する影響を示す

2017年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前年度実績>

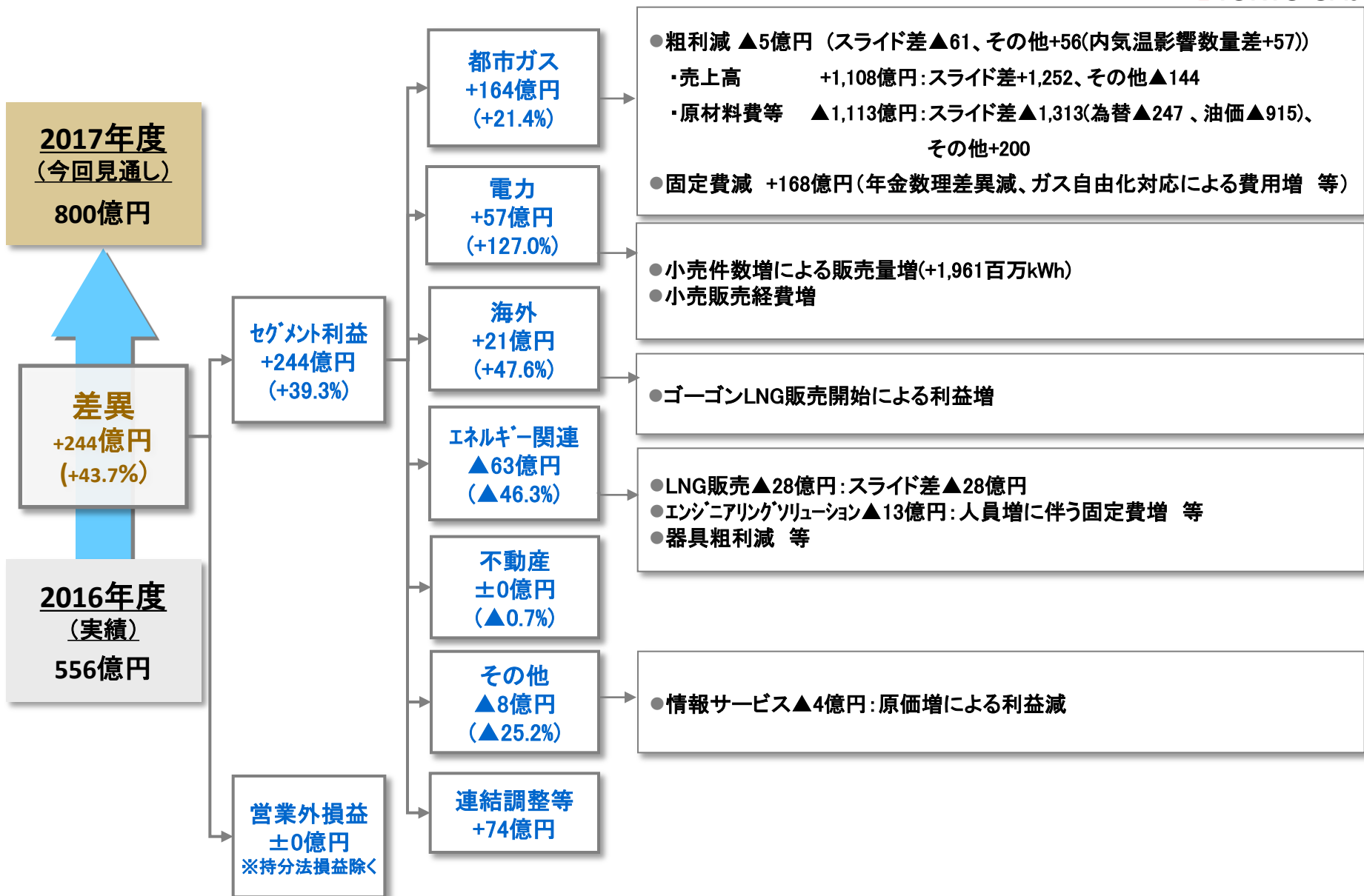
(単位:億円)

	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	今回見通し	前年度実績	増減	%	今回見通し	前年度実績	増減	%
都市ガス	11,508	10,400	1,108	10.6	929	765	164	21.4
電力	2,136	1,457	679	46.6	101	44	57	127.0
海外	445	319	126	39.3	65	44	21	47.6
エネルギー関連	5,055	4,595	460	10.0	74	137	▲63	▲46.3
(エンジニアリングソリューション)	1,221	1,116	105	9.4	36	49	▲13	▲26.2
(LNG販売)	1,259	912	347	38.1	5	33	▲28	▲84.9
不動産	428	414	14	3.4	78	78	0	▲0.7
その他	940	890	50	5.5	24	32	▲8	▲25.2
調整額	▲2,432	▲2,207	▲225	—	▲408	▲482	74	—
セグメント合計	18,080	15,870	2,210	13.9	863	619	244	39.3

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

2017年度見通し 経常利益分析

〈対前年度実績〉



※符号は利益に対する影響を示す

主要計数表(連結)

(単位: 億円)

	2017年度 見通し	2016年度 実績	2015年度 実績
総資産 (a)	23,400	22,302	22,515
自己資本 (b)	11,280	11,014	11,002
自己資本比率 (b)/(a)	48.2%	49.4%	48.9%
有利子負債 (c)	8,010	7,135	7,157
D/E レシオ (c)/(b)	0.71	0.65	0.65
親会社株主に帰属する当期純利益 (d)	610	531	1,119
減価償却 (e)	1,680	1,643	1,451
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,290	2,174	2,571
設備投資 (Capex)	2,650	2,033	2,320
ROA: (d) / (a)	2.7%	2.4%	5.0%
ROE: (d) / (b)	5.5%	4.8%	10.3%
TEP	62	▲62	676
WACC	2.9%	3.0%	3.4%
総分配性向	60%程度	60.7%	60.1%

注: 自己資本 = 純資産 - 非支配株主持分
 ROA = 純利益 / 総資産 (期首・期末平均)
 ROE = 純利益 / 自己資本 (期首・期末平均)
 BS関連数値は各期末時点の数値
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益

TEP (Tokyo Gas Economic Profit) について
 TEP = NOPAT - 資本コスト (投下資本 × WACC)
 ○ 株主資本 = 時価総額
 ○ WACC 算定諸元 (2017年度見通し)
 ・ 有利子負債コスト 実績金利 1.11% (税引後)
 ・ 株主資本コスト率
 ・ リスクフリーレート 10年国債利回 0.11%
 ・ マーケットリスクプレミアム 5.5% β 値 0.75

3. 参考資料

原油価格JCCが \$1/bbl 上昇する場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲2	▲11	+14	+1
	第3四半期	—	▲3	▲13	▲16
	第4四半期	—	—	▲4	▲4
	通期	▲2	▲14	▲3	▲19

円ドルレートが ¥1/\$ 円安になる場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲6	+6	+2	+2
	第3四半期	—	▲8	+9	+1
	第4四半期	—	—	▲11	▲11
	通期	▲6	▲2	0	▲8

2017年度 主なトピックス (7月28日まで、プレスリリースより抜粋)

共通	<ul style="list-style-type: none"> 2017年度 東京ガスグループの取り組み(4/13) 九州電力と東京ガスによるLNG調達における戦略的連携(4/12)
都市ガス	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用燃料電池「エネファーム」累計販売台数8万台を達成(5/8) 燃料電池の発電効率を65%相当まで高める高効率化技術を開発 ～世界で初・5kW級の小出力において発電効率65%相当を実証～(5/23) 水素ステーションの本格整備に向けた新たな協業の検討を開始 ～戦略的なステーション整備を目的とする新会社設立を検討～(5/19)
電力	<ul style="list-style-type: none"> ガス小売事業の変更登録申請(5/29) 東彩ガス地区および東日本ガス地区向け東京ガスグループの総合エネルギーサービスプラン「ずっともプラン」(6/27) 川崎天然ガス発電所3・4号機増設計画の事業化検討の中止(7/14)
海外	<ul style="list-style-type: none"> マニラ事務所の開所(4/21) 米国ペンシルベニア州における天然ガス火力発電事業への参画(4/18) 米国テキサス州のガス開発事業会社への出資(5/8)
リキッド	<ul style="list-style-type: none"> LPガス配送合理化を目的としたLPWA(Low Power Wide Area)ネットワークを活用したIoTによる実証事業の開始(6/5)
暮らしサービス	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンアプリ「トリセツ」とmyTOKYOGASの連携によるご自宅のガス機器と家電製品の情報を一元管理できるサービスの提供(7/21)
エンジニアリングサービス	<ul style="list-style-type: none"> 九州営業所・長野営業所の開設(4/3)* 住友化学愛媛工場内でのLNG基地事業に関する共同検討の開始(5/31)* バングラデシュにおけるLNG受入基地に関する業務の受注について(7/27)*
地域開発サービス	<ul style="list-style-type: none"> (仮称)TGMM芝浦プロジェクト 街区名称を「msb Tamachi(ムスブ田町)」に決定 -東京ガス・三井不動産・三菱地所によるJR田町駅直結のミクストユースの街づくり-(5/16)
財務・株主還元	<ul style="list-style-type: none"> 第42回無担保社債および第43回無担保社債発行(6/2) 自己株式 取得に係る事項の決定(4/28)、市場買付けおよび取得完了(5/23)、消却(6/29)



<見通しに関する注意事項>

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

TSE:9531